

修学旅行特集～フランス・ベルギー～



水戸啓明高校

私の高校時代、海外旅行とパリへの憧れ

学年主任 生田目 智文

2年生の修学旅行出発まであと1か月余りとなりました。行き先はフランス・パリとベルギーです。皆さんがパリに到着する頃は、クリスマスシーズン真っ盛りで、町中を七色のイルミネーションが飾っている事でしょう。特にクリスマスを待ちきれないパリジャンやパリジェンヌで賑わっているクリスマスマーケットやイルミネーションに輝くエッフェル塔、そして凱旋門へとつづくシャンゼリゼ大通りは、一生忘れられない旅情となること請け合いです。

私は、修学旅行の引率を含め7回パリへ旅行しているが、何といても最初にパリを旅行したときの感動は、今でも忘れられません。その理由は、高校時代に読んだ本に感化され、自分でも異常に思えるほど「パリへの憧れ」が強かったからです。その本は、犬養道子さんの書いた「セーヌ左岸」という小説でした。

私の高校時代1980年代のパリは、「花の都パリ」と称され、世界中の観光客を惹きつけてやまないヨーロッパの古都市でした。「セーヌ左岸」の作者犬養道子さんは、当時パリに在住して、パリでの生活の様子が事細かに描かれ、自分の部屋にいながらして、パリの路地裏をも歩く雰囲気を見せてくれた。題名の「セーヌ左岸」とは、その名の通りパリ中央を貫いて流れるセーヌ川の左側の地域で、エッフェル塔やオルセー美術館、ソルボンヌ大学のあるカルチュ・ラタンなどがあり、今では町全体が世界遺産に登録されている地域です。

その本を読んでから、パリのことなら何でも知りたくて、図書館で世界地理の百科事典を読んだり、旅行会社のカウンターからフランスやパリ旅行のパンフレットを何十冊も貰ってきたりした。その後読んだ芥川幹さんのパリ留学体験記「マドモアゼル・シャトンのフランス日記」も、私に追い打ちをかけるようにパリへの憧れを駆り立てた。大学3年生の時、アルバイトをしてお金を貯め、やっとの事でヨーロッパ旅行に出発した。自分が学んでいる英語を使えるように、外国の航空会社を選び、パッケージ旅行ではなく一人旅のフリープラン14日間の旅だった。

成田空港を出発して、まずドイツのフランクフルト国際空港に到着した。バスでロマンチック街道を南下してスイスへ入る。ユングフラウ山への登山電車の車窓からは、今にも「アルプスの少女ハイジ」が駆け出して来そうな風景に感動した。そしてジュネーブから当時世界一速いフランスの新幹線 TGV に乗ってよいよ憧れのパリへ。パリ・リヨン駅に到着したのは夕暮れ時だった。駅で流されるフランス語のアナウンスは、意味は全く分からなかったが、旅情を満足させるには十分だった。ホテルまでのバスの車窓からはパリの夜景しか見えなかった。それでも今自分は長く憧れ続けたパリにいて、あの小説の舞台に紛れもなく立っているのだという満足感は、言葉には尽くせないほどであった。その晩は興奮してなかなか寝付かれず、遅くまで友人や親戚に絵はがきを書いていたのを思い出す。

次の日から4日間、セーヌ左岸を中心にパリの街を歩き回った。というより写真を撮りまくった。小説に出てきた場所があったりすると、感動して写真の枚数も増えた。フランス語は全く話せなかったが、英語が結構通じて、ホテルやレストランでも不自由はなかった。失敗もある。オープンカフェで風景を見ていると、中東地域の衣装をまとった女性がぐったりした赤ちゃんを抱きかかえて、フランス語で何かを話しかけてきた。何を言っているかは分からないが、「この子に食事をさせるお金がないので恵んで欲しい」と言うように Money! Money! と何度も言うので、母親に日本円にして3,000円程をやったら、逃げるようにして去って行った。近くにいた日本人観光客に「ジブシーにまんまと騙されたね」と言われたが後の祭り。これも初めてのパリでの良い? 思い出の一つになった。

旅行は、帰国してからの余韻もまた楽しい。改めてガイドブックを見直したり、訪れた街の写真を見ると、その風景の中にカメラを片手に歩く自分の姿が見えたりする。もう30年近く前のことでも、当時の写真を見ると初めて行ったパリ旅行がつい昨日のことに思える。

皆さん、「ただ連れて行かれるだけの修学旅行」ではおもしろくありません。小説で読んだことや映画で見たシーンなど、その旅行先への思い入れが強ければ強いほど、現地に行ったときの感動は大きくなります。世界がまだ広く遠かった私の高校時代。しかし、今2013年。交通機関の進歩、インターネットの発達、旅行者向けDVDなど世界はますます身近になっています。出発まで残り1か月。フランスやベルギーについて詳しく学び、そして調べ、一生心に残る感動の旅と一緒に体験しましょう。

What is France and Belgium like ?

フランス共和国
République française
面積: 632759km²
人口: 6278万人
首都: パリ
日本との時差: -8時間
漢字表記: 仏蘭西
国の標語: 自由・平等・友愛
大統領: フランソワ・オランド



ベルギー王国
Kingdom of Belgium
面積: 30528km²
人口: 1065万人
首都: ブリュッセル
日本との時差: -8時間
漢字表記: 白耳義
国の標語: 団結は力なり
国王: フィリップ

修学旅行日程



○ 水戸駅南口集合 貸し切りバスで成田に出発
成田空港到着 パリへ出発!

所要時間は12時間40分。
長時間になるので、寝るもよし、映画をみるもよし。
機内は乾燥するのでマスクなどを準備しましょう!
スリッパやむくみ防止靴下もいいよ!

○ パリ到着 入国手続き ホテルへ パリ宿泊

○ パリ1日目 パリ市内見学 パリ宿泊

ノートルダム寺院やエッフェル塔、ベルサイユ宮殿などの観光。
バトゥムッシュはセーヌ河からパリの街並みを堪能します☆
かなり寒いようなので、防寒対策必須!!

○ パリ2日目 ルーヴル美術館見 パリ市内自由行動 パリ宿泊

フランスはじめての自由行動。買い物したり、見学したり。
買い物に夢中になって、お土産や鞆を盗られないように!

○ パリ → アントワープ

○ ベルギー1日目 アントワープ市内見学 ブリュッセル宿泊

フランダースの犬で出てくる有名な絵画を見られます。
アントウエルペン(腕を投げた)が語源です。

○ ベルギー2日目 ブリュッセル市内見学 自由行動

ワッフルとチョコレートが有名でおいしい街!
かわいいお土産もいっぱいです♪
細い路地には絶対に入らない。入った時には…日本に帰れないかも。
ジブシーとは目を合わさない・話しかけない・さわらない。

○ ブリュッセル → パリ パリ宿泊

○ パリ3日目 午前見学 午後日本へ

モンマルトルの丘を観光してからの
かなり歩く＆登るので、しっかりと体力をつけて最後のパリを楽しみましょう。

○ 成田到着 水戸駅南口解散



フランスでやってはいけない!

大声を出すこと

これは日本でもそうですね。大声を出すのは子どもか人を助けるときだけです。人と待ち合わせのときは手をあげてき気づくの待ちましょう。

お店に入ったら挨拶

日本とは違って、お店に入ったらこちらから挨拶をするのが基本です。挨拶をすることで接客してくれるので、積極的に挨拶しましょう。挨拶をするだけで店員の態度もかなり変わります。

安易に人と話すこと

日本より治安の悪いフランス・ベルギーです。やさしくフレンドリーに話しかけてきたら要注意！スリにあってたり、お金を盗られたりといいいことはありません。子どもにも要注意！細い小道に入るのも危険です。

マスク!!

マスクをつけている人が多いですが、フランスではよほどの重病ではないかぎりマスクはつけません。マスクは絶対に外しましょう!!!

勝手に商品にふれない

日本のように商品を手に取るということは、購入することになります。これはほとんどの外国で基本となっているので、気をつけましょうね。

ホテルの廊下をスリッパ

日本ではホテルに入ったらくつろいでしまいますが、外国ではホテルの通路も公共の場です。パジャマで歩いたり、スリッパで歩くことは、道路でくつろいでいることと一緒に。もちろん騒いだり、ふざけたりすることは絶対にダメです。

ゲッフ

フランスではおならより汚いとされています。食事中だけでなく、公共の場でも厳禁です。マナーを守りましょう。郷に入っては郷に従えです。

鼻をすすること

不快に感じる人が多いそうです。鼻がつまったら、たとえ食事中であろうともすすらずにかみましよう。ゲッフほどではないようですが、覚えておきましょう。

人前でリップ

化粧直しを人前ですることは日本でもNGですが、フランスではリップを塗ることも化粧直しと同じ事です。塗りたい時は、トイレに行くなどしましょう。

日本の当たり前(?)がフランスでは通用しない場合が多く見られます。基本は挨拶(これは日本もですが...)！相手の顔をみながら、笑顔で(ここ強調！)

Bonjour (ボンジュール・こんにちは)

Merci beaucoup (メルスイ ポクー・どうもありがとう)

と、いましょうね♪



オススメの服装！服装にもルールがあるよ



←こんな感じの服装がベスト！参考にしましょう。

- 暖かくて脱ぎ着がしやすく、体温調節できる。
- 長いズボン。丈の短いタイプ、レギンス、スカートは禁止。
- 靴は底が平らなゴム製で滑りにくいもの。高さはくるふしまでならOK。
- ※フランスでは歩きにくい石畳の道を歩くので、機能性を重視しましょう！

絶対長ズボン!



○これもNG!



○靴底が薄〜いフラットシューズ。※長距離を歩くと疲れます。保温性もありません。寒い!ー



○絶対ダメ!



○もちろんダメです



先輩からのアドバイス



ヒートテックは必需品！寒いフランスでは重宝しました。うすいし、暖かいのでトランクの中がかさばらないのもありがたい。洋服を持って行きすぎると、お土産がトランクに入らないことも…。洋服はオシャレ重視ではなく、実用性のあるものにしよう。

3年女子より

ユーロに両替をするのに手数料がかかることを知らなかった…。微々たる金額ですが、手数料も考えて両替に行きましょう。また、硬貨は日本では両替できないので、チップなどで使ってくるのがベストです！

3年男子より

貴重品管理は大切！日本でスマホを机の上に置いたりするけど、そんなことしたら盗られます。盗られたことにも気付かないくらい鮮やかな手口で、私のときは目撃していた人が取り返してくれました。運が良かったからいいけど、そのままだったら…考えるとゾッとしました。

3年女子

他にもいろいろな話がありました。多かったのは持ち物のこと・犯罪(ジブシー・スリ)のこと。先輩の話をきいたり、先生に質問したり、より楽しい修学旅行にするために事前のリサーチをしっかりとしよう！また、毎日のユーロや、どういう人に気をつけなきゃいけないのかを自分たちで調べることもしてみよう♪

よりよい修学旅行のために、みんなで盛り上げていこう!

修学旅行の心得 第2回

修学旅行まで一月半となりました。そろそろ本格的に旅行の準備を始めましょう！特に**防寒対策を万全に**。12月のフランスは、と〜っても寒いので。外を歩く際には厚手のコートが必需品。一方でバスや機内は外と温度差があるので、温度調整のできる服装がいいです。また服をたくさん持っていくのではなく、数枚で着回しができるものにする。帰りはお土産が増えることを想定し、出発時の荷物少なめを心がけましょう。靴は長時間歩くので歩きやすい**スニーカー**を準備してください。他にも**常備薬(酔い止め薬・頭痛薬・胃腸薬等)**を忘れずに。また機内に液体を持ち込む際に必要な**ジップロック**は他にもいろいろと重宝するので必ず持参しましょう。

【液体の機内持ち込みについて】

- ・すべての液体物は100ミリリットル以下の容器に入れる。
- ・それらの容器を1リットル以下のジップロック(縦横合計40cm以内が目安)に入れる。
- ・1袋のみ持ち込み可能。※**歯磨き粉やチョコレートも液体物**です。

【手荷物について】

機内に持ち込めるのは手荷物のみです。機内で必要なものはスーツケースに入れられないように注意しましょう。ただし、刃物は機内への持ち込みは禁止ですのでスーツケースへ入れて下さい。はさみやカミソリはもちろん、**爪切りやピンセット等も刃物**となります。



